

第1回武田薬品工業湘南研究所の環境保全に関する連絡会について報告

1. 日時 平成23年7月10日(日) 10:35~12:15
2. 場所 武田薬品工業湘南研究所 CS棟2MF階 0310号
3. 出席者 植木町内会(2名)、岡本住宅町内会、鎌倉ロジュマン(2名)、鎌倉岡本ガーデンホームズ(2名)、四季の杜自治会、レックスガーデン、鎌倉グランマックス 計10名出席(5名欠席)
武田薬品工業湘南研究所:7名出席
鎌倉市(環境保全課):3名出席

4. 内容

鎌倉市環境部長、武田薬品工業株式会社プロジェクトリーダーの挨拶、各委員の自己紹介の後に、別紙次第に従って連絡会が開催され、主な内容は次のとおりです。

(1) 連絡会の運営について

司会: 連絡会の議事録の公開については、これまでお話ししてきたとおり、連絡会の議事録については、事務局で概要をまとめて各委員に内容の確認した後にホームページ等で公開することを考えている。

司会: この方向で進めてよいか。

一同: 異議なし

司会: 連絡会の傍聴について、市では、条例等に従い市が設置した審議会等については、傍聴を可としている。この連絡会については、市が単独で設置したものではないので、その位置づけとは違う。市、市民、武田薬品が関わっている会議であるため、その可否については、運営要領に基づき委員の皆様の意見を聞きたい。

なお、傍聴にあたっては、

- ① 発言・私語の禁止
- ② 可否の表明の禁止
- ③ 拍手等の禁止
- ④ ビラの配布、プラカードの禁止
- ⑤ 撮影、録音の禁止

が、主な遵守事項になる。もしそれを守れない場合は、退場もありうるということである。

この件に関する主な質疑は次のとおり。

住民: 傍聴を認める必要はないと考える。理由として、

①連絡会そのものが、3者によるものであり、行政だけのものとは立場が違う。

②議事録が公開されるので特に必要なし。

住民: 周辺からも公開してほしいとの声が来ている。議事録では伝わらないニュアンスがある。公開しない場合のデメリットの方が大きいと思うので傍聴を認めるべきと思う。

司会: 武田薬品としての考えはどうか。

武田：住民の皆様や市の意見を聞いて判断したい。

弊社としては、この連絡会の場合は、自由闊達に意見を交える場と考えているが、傍聴を可能とするとそれを阻害する状況が生じることを懸念しているので、傍聴については慎重な考え方である。また公開するとすれば全員一致が望ましい。

司会：提供した資料はどうなるのか。持ち帰る可能性がある。

武田：連絡会終了後に、それぞれの町内会や管理組合等で会議の内容をご紹介・ご説明いただくことになるということなので、今後、それを前提として作成・配布する。

市：議会等では傍聴は可としている。非公開の時のデメリットの方が大きいのではないか。これまで地元住民の不信感がないように、協定書を結び、連絡会を作った。非公開は不信感を招くのではないか。

提供された資料は公開が前提と考える。

司会：連絡会として一致した考えで進めたいと考えている。傍聴については、今すぐに決を採って決めるようなことは、問題があると考えてるので、市の考え、武田の考え、委員からの考えも含めて、それぞれ検討していただき、次回の連絡会の議題としたい。

武田：この件に関しては、鎌倉市と藤沢市と歩調を合わせたい。

（２）武田薬品工業株式会社からの報告について

武田薬品から近況報告（移転状況・電力の節減対策）、防災関連（地震対策・防災体制・規則）、環境対応（モニター制度の依頼・自主測定結果報告）、工事関連について、説明を行い、その特記事項は次のとおり。

・排水検査について

亜鉛の測定結果が、環境基準の範囲内だが弊社の管理基準を一時超過した。冷却塔の配管の亜鉛メッキが溶接ではがれ、影響している可能性がある。洗浄を十分行って利用を開始する等対策を取り、管理基準を満足できるように注視しながら運用していく予定である。

・環境モニター制度について

今回連絡会に参加している、8自治会・町内会から1人ずつ協力をいただき、なるべく研究所近隣の方か環境担当の方になっていただくことを希望する。

年1回のアンケートの回答が主な業務になる。もちろん、アンケートのときだけでなく、何か気づいたことがあれば、適宜いつでも対応する。また、年1回集まってもらうことも考えている。

主な質疑は次のとおり。

住民：以前、工場の時には広域避難場所になっていたが、住民の避難場所に提供する考えはないのか。

武田：工場閉鎖時に市が避難場所を見直された。避難場所の要請があれば協力したい。

市：武田薬品からは、新研究所開設にあたって広域避難場所についての話が

来ていた。担当の総合防災課に話をしたが、工場閉鎖に伴い、既に他の場所が避難場所になっており、現在すぐという話ではないが、担当者に改めて伝える。

住民：武田薬品の敷地内から音がしていて気になるとの話が来ている。低周波のようだが、調査をしてほしい。研究所の屋上に設置している排気ファンは24時間運転しているのか。

武田：運転している。

敷地内からの音は高音と聞いている。継続して対応をしている。場合によっては客観的な判断をしてもらうために市の立ち会いをお願いするかもしれない。

また、発生場所ではないかと思われるところに、ご本人に来ていただいて確認してもらうのもいいかと思う。

住民：危険物の倉庫について、北側の敷地境界近くに住んでいる方から、敷地内を見せてほしいと要望が来ている。協力してもらえないか。

武田：検討する。

住民：災害時の連絡体制について伺いたい。津波が来た場合はどのように想定しているのか。

武田：マニュアルに沿って対応するが、市の防災拠点にまで被害が及んだ場合には、連絡は難しいと考える。

市：連絡体制について、防災無線は、停電した場合でもバッテリーが整備されており、メールも配信できる。短期間の対応は可能である。

住民：津波が来た場合など、実験中の細菌や有毒物の漏洩について対応は可能なのか。

武田：もともと実験に使用している量は少なく、原子力発電所や大きな工場とは違い、住民の皆様にご迷惑をかける状況にはならない。

もちろん、津波が来る前に安全に実験を停止し、適切に処置もするので、ご心配いただく必要はないと言える。

住民：電源が失われた場合はどのように対応するのか。

武田：10～15分もあれば、安全に実験を停止し、適切な処置をすることは十分にできるが、停電になっても非常用発電が立ち上がるため、対応できる。電源が失われた場合の対応についても決められている。

ただ、昼間と夜起きる地震で対応は変わる。夜は暗い中で対応が鈍ることを想定して、対応については考える。

住民：夜間について、今は出来ていないが、今後進めていくということか。

武田：そのとおりである。

住民：実験動物の冷凍施設について、停電した場合に腐敗が進むのではないか。

武田：長期間になる場合は考えられるが、今回の東日本大震災や神戸の震災時にも供給が止まらなかった防災用の配管で供給されるガスによる自家発電があり、長期間停電するケースは考えにくい。また、それが止まっても非常用電源施設の燃料は3日分ある。

6. その他

次回の連絡会については、11月の開催を予定する。今回の課題については、次回に検討することとした。